

令和元年度小松市立第一小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
道徳教育	「特別の教科 道徳」を中心とした道徳性の育成	6月に、道徳教育を充実させるための取組について全職員で共通理解をした。また、道徳教育推進教師研修の報告も併せて行い、道徳教育と道徳科に関する基礎的理解や評価の在り方等についても確認した。 道徳授業の公開については、1学期末の時点で3クラスが保護者に公開を行っている。2学期の学校公開や3学期の授業参観で確実に授業公開が行われるように声をかけていく。	全職員で共通理解した「道徳授業の保護者への公開」については、全学年全クラスが行い、道徳科の授業への理解をうながすことができた。また、2年目となる道徳科の評価についても、混乱なく適切に進めることができた。保護者との連携という点でいえば、例えば、公開後にアンケートをとるなど、学校と保護者が道徳について共通理解を図ることができるような取組をしていくことも考えていきたい。また、道徳性を育む環境もやや不十分であったと感じているので、来年度は整備していく。
	・授業参観や学校公開で、全学級で道徳授業を公開し、家庭や地域と連携して道徳性を高める。 ・ねらいを明確にした道徳授業を実践し、指導と評価の一体化を図る。	各学年、年間指導計画に基づき、児童に学習の前後で、地域に対する見方や考え方がどのように変わったかアンケートを行っている。 一学期は、2年生が「町探検にいこう」、5年生が「お米調べ学習」について取り組んでいる。自分の住んでいる地域に対し、どのように見てどんなことを考えているか把握できると良いと思う。児童一人一人が、調べたいことに対し自分のめあてを持ち、解決に向けて努力することができるように、二学期以降も取り組んでいきたい。	地域と密着している単元において、学習前後でアンケートを引き続き行った。地域のことをよく知っているかという問いに対し、どの学年もよくあてはまる割合が少ない結果がみられた。人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合は、多くみられた。 基本的に、キャリア教育の資質や能力は、普段の学習や学校生活の中で培われていくものである。今年度、取り組んだ児童の実態や変容を把握し、来年度へつなげていきたい。
キャリア教育	地域素材・地域人材の活用	各学年、年間指導計画に基づき、児童に学習の前後で、地域に対する見方や考え方がどのように変わったかアンケートを行っている。 一学期は、2年生が「町探検にいこう」、5年生が「お米調べ学習」について取り組んでいる。自分の住んでいる地域に対し、どのように見てどんなことを考えているか把握できると良いと思う。児童一人一人が、調べたいことに対し自分のめあてを持ち、解決に向けて努力することができるように、二学期以降も取り組んでいきたい。	地域と密着している単元において、学習前後でアンケートを引き続き行った。地域のことをよく知っているかという問いに対し、どの学年もよくあてはまる割合が少ない結果がみられた。人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合は、多くみられた。 基本的に、キャリア教育の資質や能力は、普段の学習や学校生活の中で培われていくものである。今年度、取り組んだ児童の実態や変容を把握し、来年度へつなげていきたい。
	・夢や希望をもって努力し、意欲をもって学び続ける児童を育てるために、地域素材・地域人材を活用する。 ・ボランティアマインドを育成し、相手の立場に立って考え、行動しようとする児童を育てる。	「縦割り活動などで、他の学年とかかわるのは楽しいですか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、96.2%であった。6年生は、下学年のことを考えながら活動する経験を通して、責任感やリーダー性を育むことができていく。また、どの学年も、今までに関わりなかった児童同士が新たな関わりをもて、活動で楽しそうな笑顔がたくさん見られた。2学期も活動を継続していく。 「魅力ある学校づくり」では、学年で共通実践をし、児童の意識調査を受けて、夏季休業中に実践の成果と見直しを話し合う。2学期はさらに学年で一体となって取り組む。	「縦割り活動などで、他の学年とかかわるのは楽しいですか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、93.7%であった。5年生の肯定的な割合が下がったが、3学期は5年生が主体となり行うので、全教職員が企画から振り返りまで関わり、来年度のリーダーとして自己有用感や肯定感を育てていく。 「魅力ある学校づくり」では、児童の実態調査を受けて、12月中に実践の成果と見直しを協議した。成果のあった取組は継続し、児童の意識と差があった点について改善していく。学年末にあたる3学期には、次年度へつなげる取組を学年一体となって取り組んでいく。
生徒指導	児童一人一人の居場所づくり・絆づくり	「縦割り活動などで、他の学年とかかわるのは楽しいですか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、96.2%であった。6年生は、下学年のことを考えながら活動する経験を通して、責任感やリーダー性を育むことができていく。また、どの学年も、今までに関わりなかった児童同士が新たな関わりをもて、活動で楽しそうな笑顔がたくさん見られた。2学期も活動を継続していく。 「魅力ある学校づくり」では、学年で共通実践をし、児童の意識調査を受けて、夏季休業中に実践の成果と見直しを話し合う。2学期はさらに学年で一体となって取り組む。	「縦割り活動などで、他の学年とかかわるのは楽しいですか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、93.7%であった。5年生の肯定的な割合が下がったが、3学期は5年生が主体となり行うので、全教職員が企画から振り返りまで関わり、来年度のリーダーとして自己有用感や肯定感を育てていく。 「魅力ある学校づくり」では、児童の実態調査を受けて、12月中に実践の成果と見直しを協議した。成果のあった取組は継続し、児童の意識と差があった点について改善していく。学年末にあたる3学期には、次年度へつなげる取組を学年一体となって取り組んでいく。
	・児童が互いに関わり合える場を設定し、みんなで取り組むことのよさを実感させる。 ・『魅力ある学校づくり調査研究事業』を通して、学年・学校が丸となって児童の実態把握を行い、具体的なプランを立て、取組を確実に実施していく。年間3回の取組の検証を行う。	学年別の児童理解の会で、困り感のある児童について困っていることだけでなく、支援の手だてについて具体的に話し合う機会をもつことができ、学年全体の児童について理解を深めることができた。 事例研修会については、1学期に開くことができなかつたので、2学期に開催する予定で計画を立てる。	「児童理解の会を行い、児童への理解を深め、適切な支援方法の共通理解を図り、実施している。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、90.9%。 学年別の会で、支援の手だてを協議し、全体会で全教員で共通理解を図ることができた。 事例研修会、教育相談研修会の実施により、支援方法や児童への関わり方について研修し、対応力の向上を図ることができた。
特別支援教育	児童理解の充実	学年別の児童理解の会で、困り感のある児童について困っていることだけでなく、支援の手だてについて具体的に話し合う機会をもつことができ、学年全体の児童について理解を深めることができた。 事例研修会については、1学期に開くことができなかつたので、2学期に開催する予定で計画を立てる。	「児童理解の会を行い、児童への理解を深め、適切な支援方法の共通理解を図り、実施している。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、90.9%。 学年別の会で、支援の手だてを協議し、全体会で全教員で共通理解を図ることができた。 事例研修会、教育相談研修会の実施により、支援方法や児童への関わり方について研修し、対応力の向上を図ることができた。
	・児童理解の会を全体又は学年別で行い、児童への理解を深め、適切な支援方法の共通理解を図り実施する。 ・個に応じた対応力を向上させるために講師を招聘し、事例研修会を行う。	1学期の貸出し冊数は、昨年度の1学期と比較すると928冊増加している。不読者がいるので、学級担任を通じ、借りよう働きかけていく。 良書に親しむためのチャレンジ10冊の取り組みは、1学期末で163人が達成している。（達成率24%）高学年の達成率が5年3%、6年4%と低いので、1年間で達成するよう促していく。	2学期末の貸出し冊数は65481冊で、昨年の同時期より809冊多く、不読者への声かけの成果が表れている。 チャレンジ10冊の取り組みは、2学期末で212人が達成している。（達成率32%）高学年は、5年5人、6年4人と増加が見られないので、月ごとの貸出し冊数に加え、チャレンジ10冊の達成成果も担任に伝える等の手立てを考え、チャレンジ10冊読書への意欲付けを行う。
読書教育	読書の質的向上	1学期の貸出し冊数は、昨年度の1学期と比較すると928冊増加している。不読者がいるので、学級担任を通じ、借りよう働きかけていく。 良書に親しむためのチャレンジ10冊の取り組みは、1学期末で163人が達成している。（達成率24%）高学年の達成率が5年3%、6年4%と低いので、1年間で達成するよう促していく。	2学期末の貸出し冊数は65481冊で、昨年の同時期より809冊多く、不読者への声かけの成果が表れている。 チャレンジ10冊の取り組みは、2学期末で212人が達成している。（達成率32%）高学年は、5年5人、6年4人と増加が見られないので、月ごとの貸出し冊数に加え、チャレンジ10冊の達成成果も担任に伝える等の手立てを考え、チャレンジ10冊読書への意欲付けを行う。
	・児童1人1人が読書に対するめあてをもち、「本のとびら」や「この本を読もう」などを活用しながら、読書量の増加を図ったり、良書に親しんだりするよう働きかける。	「給食時間に給食指導（手洗い・配膳・食事マナーなど）を継続的に行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、100%。「食育の視点を取り入れた教科指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、93.5%。「病気やけがの予防について、継続的な指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、96.8%。「お子さんは、マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしている。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、75.0%。「お子さんは、病気やケガをしないように気をつけて生活している。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、91.0%。「マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしていますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、85.6%。「病気やけがをしないように気をつけて生活していますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、89.8%。 食育授業を実施した学年は2学年のみなので、2学期中に全学年が取り組み、好き嫌いせず食べようという意識をもたせたい。	「給食時間に給食指導（手洗い・配膳・食事マナーなど）を継続的に行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、97.0%。「食育の視点を取り入れた教科指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、97.0%。「病気やけがの予防について、継続的な指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、97.0%。「お子さんは、マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしている。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、75.0%。「お子さんは、病気やケガをしないように気をつけて生活している。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、90.9%。「マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしていますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、84.3%。「病気やけがをしないように気をつけて生活していますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、90.4%。 全学年食育授業を行い、給食時間には栄養教諭が巡回することでマナーやバランスの良い食事について意識を高めることができた。意識だけでなく、行動にうつし、できたと実感できる指導が必要。学校保健委員会では実際にヨガ運動をし、けが予防のために一人一人が気持ちの持ち方や体づくりについて考えることができた。
保健健康教育	自己管理能力の育成	「給食時間に給食指導（手洗い・配膳・食事マナーなど）を継続的に行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、100%。「食育の視点を取り入れた教科指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、93.5%。「病気やけがの予防について、継続的な指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、96.8%。「お子さんは、マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしている。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、75.0%。「お子さんは、病気やケガをしないように気をつけて生活している。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、91.0%。「マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしていますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、85.6%。「病気やけがをしないように気をつけて生活していますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、89.8%。 食育授業を実施した学年は2学年のみなので、2学期中に全学年が取り組み、好き嫌いせず食べようという意識をもたせたい。	「給食時間に給食指導（手洗い・配膳・食事マナーなど）を継続的に行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、97.0%。「食育の視点を取り入れた教科指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、97.0%。「病気やけがの予防について、継続的な指導を行っている。」に対して、肯定的に回答している職員の割合は、97.0%。「お子さんは、マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしている。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、75.0%。「お子さんは、病気やケガをしないように気をつけて生活している。」に対して、肯定的に回答している保護者の割合は、90.9%。「マナーを守って、好き嫌いせず、食事をしていますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、84.3%。「病気やけがをしないように気をつけて生活していますか。」に対して、肯定的に回答している児童の割合は、90.4%。 全学年食育授業を行い、給食時間には栄養教諭が巡回することでマナーやバランスの良い食事について意識を高めることができた。意識だけでなく、行動にうつし、できたと実感できる指導が必要。学校保健委員会では実際にヨガ運動をし、けが予防のために一人一人が気持ちの持ち方や体づくりについて考えることができた。
	・栄養教諭を中心に、学年の実態に応じた食育の授業を年1回行う。 ・けが予防については、学年の実態に応じて段階的な指導方法を考え、実施する。学校保健委員会では『けがをしにくい体づくり』をテーマに講師を招聘し、けが予防への意識付けを行う。	教科のねらいと関連させながら、補助運動として1学期は「スポチャレいしかわの40mリレー」に全学級が取り組んだ。児童玄関に各学級の記録を掲示することで、意欲につながり、何度も取り組む学級が多くあった。2学期以降も継続していきたい。 児童が企画・運営する体力向上遊びでは、体育委員会の児童が「いちのこオリンピック2019」を企画し全校で取り組んだ。昨年度のスポーツテストの結果では、本校児童は「握力・柔軟性・瞬発力」に課題があった。いちのこオリンピックでは、これらの課題の向上につながるような運動遊びを児童が考え、ビンゴゲームのようにすることで運動に親しみながら体力の向上に取り組んだ。3列ビンゴになった児童は、全校670名中170名であり25%の児童であった。運動に親しみながらできる取り組みを継続していきたい。	バランスの良い体力の向上を目指し、2学期は「スポチャレいしかわのシャトルボール」、ロードレース大会に向けての長休みの持久走練習「らんらんタイム」に取り組んだ。ラダーを使った準備運動は、メディアホールにライントレープを常時用意しておくことで、休み時間に運動に親しんでいる児童が多かった。2学期は、運動会やロードレース大会に向けた取り組みが多くあった関係で、スポチャレいしかわの取り組みは1学期に比べ少なかったことが課題として残った。年間の行事を見据えて、より多く取り組めるような手立てを講じていきたい。3学期はスポチャレいしかわ「8の字とび」に取り組むが、体育委員会の児童を中心に全校へ呼びかけを行い、参加率の向上と体力の向上を図れるようにしていきたい。また、前期の体育委員会の児童が企画した体力向上遊びを後期の委員会でも行っていくことで、運動に親しめる機会を多くもてるようにしていきたい。
体力づくり	体力向上につながる取り組み	教科のねらいと関連させながら、補助運動として1学期は「スポチャレいしかわの40mリレー」に全学級が取り組んだ。児童玄関に各学級の記録を掲示することで、意欲につながり、何度も取り組む学級が多くあった。2学期以降も継続していきたい。 児童が企画・運営する体力向上遊びでは、体育委員会の児童が「いちのこオリンピック2019」を企画し全校で取り組んだ。昨年度のスポーツテストの結果では、本校児童は「握力・柔軟性・瞬発力」に課題があった。いちのこオリンピックでは、これらの課題の向上につながるような運動遊びを児童が考え、ビンゴゲームのようにすることで運動に親しみながら体力の向上に取り組んだ。3列ビンゴになった児童は、全校670名中170名であり25%の児童であった。運動に親しみながらできる取り組みを継続していきたい。	バランスの良い体力の向上を目指し、2学期は「スポチャレいしかわのシャトルボール」、ロードレース大会に向けての長休みの持久走練習「らんらんタイム」に取り組んだ。ラダーを使った準備運動は、メディアホールにライントレープを常時用意しておくことで、休み時間に運動に親しんでいる児童が多かった。2学期は、運動会やロードレース大会に向けた取り組みが多くあった関係で、スポチャレいしかわの取り組みは1学期に比べ少なかったことが課題として残った。年間の行事を見据えて、より多く取り組めるような手立てを講じていきたい。3学期はスポチャレいしかわ「8の字とび」に取り組むが、体育委員会の児童を中心に全校へ呼びかけを行い、参加率の向上と体力の向上を図れるようにしていきたい。また、前期の体育委員会の児童が企画した体力向上遊びを後期の委員会でも行っていくことで、運動に親しめる機会を多くもてるようにしていきたい。
	・教科のねらいと関連させながら、補助運動として「スポチャレいしかわ」に取り組み、バランスよく体力の向上を目指す。体育の準備運動としてラダーを使った準備運動に取り組めるようにする。 ・児童が企画・運営する体力向上遊びに全校で取り組むことで、運動に親しむ時間を設け体力の向上を目指す。	第1回評議員会（学校評価計画作成時（6月）） ・良い施設を上手に使うってよい教育を行ってほしい。 ・地域の先生を活かして行ってほしい。PTAという言葉があるが、本来はPTCAであるべき。（Cはコミュニティ）。地域の人材を活かして目標に沿った教育活動を行ってほしい。 ・道徳は本来家庭であるべきである。だからこそ、特に道徳教育にPTAを巻き込むような取組を願いたい。 ・児童はみんな意欲的に授業に参加している「たちあるき」などがなく、とてもよい。継続するよう指導をしてほしい。 ・教師には若手ベテランというが、その差なく子どもたちは真面目に学習に取り組んでいる。児童の学習に対する関心度が高い。 ・スマホの問題が心配である。特に、体に与える影響などが心配である。PTAを巻き込んで、保護者に知らせて行ってほしい。	
学校関係者評価	第2回評議員会（学校評価最終評価（2月））	・縦割り活動は、良い取り組みである。年の差がある子どもたちがふれあってとけあって、成長につながっていくものである。 ・読書時間について、若い人は新聞も読まなくなってきた。ニュースも見えないようだ。時間がなくても読書は難しいと思うが、いろいろな本を借りてほしい。 ・スマホについて、4年生の所持率25%と聞き、驚いた。中学生サミットでは、インターネットとの付き合い方を考えている。小学生にもという動きもある。 ・交通安全について、若杉交差点から若杉北までの間の歩道が明確でなく危険である。昔から危ない所である。 ・学校の働き方改革は進んでいるか。持ち帰りをしている先生もあるようだ。英語やプログラミングなど先生方の業務は多様化し、多くなっているのが現状ではないか。退職された先生や地域の力をもっと活用して、改革して行ってほしい。	

学校関係者評価	第1回評議員会（学校評価計画作成時（6月））	・良い施設を上手に使うってよい教育を行ってほしい。 ・地域の先生を活かして行ってほしい。PTAという言葉があるが、本来はPTCAであるべき。（Cはコミュニティ）。地域の人材を活かして目標に沿った教育活動を行ってほしい。 ・道徳は本来家庭であるべきである。だからこそ、特に道徳教育にPTAを巻き込むような取組を願いたい。 ・児童はみんな意欲的に授業に参加している「たちあるき」などがなく、とてもよい。継続するよう指導をしてほしい。 ・教師には若手ベテランというが、その差なく子どもたちは真面目に学習に取り組んでいる。児童の学習に対する関心度が高い。 ・スマホの問題が心配である。特に、体に与える影響などが心配である。PTAを巻き込んで、保護者に知らせて行ってほしい。
	第2回評議員会（学校評価最終評価（2月））	・縦割り活動は、良い取り組みである。年の差がある子どもたちがふれあってとけあって、成長につながっていくものである。 ・読書時間について、若い人は新聞も読まなくなってきた。ニュースも見えないようだ。時間がなくても読書は難しいと思うが、いろいろな本を借りてほしい。 ・スマホについて、4年生の所持率25%と聞き、驚いた。中学生サミットでは、インターネットとの付き合い方を考えている。小学生にもという動きもある。 ・交通安全について、若杉交差点から若杉北までの間の歩道が明確でなく危険である。昔から危ない所である。 ・学校の働き方改革は進んでいるか。持ち帰りをしている先生もあるようだ。英語やプログラミングなど先生方の業務は多様化し、多くなっているのが現状ではないか。退職された先生や地域の力をもっと活用して、改革して行ってほしい。